

## 中山間地域におけるキャベツの省力安定生産技術の実証について

中山間地域のキャベツ栽培において積雪前に収穫可能な作型での省力安定生産技術の実証を目的とし、現地水田ほ場を活用した「現場タイアップ研究」に研究だけでなく、普及・JA・生産者等現場も一体となって取り組んでいます。

県の水田園芸推進6品目の一つであるキャベツは、作型が多様で、比較的栽培が容易なことから県内全域での生産拡大が期待されています。また、近年は水稻収穫と作業が重複しにくい冬期収穫の作型で栽培面積が増加しています。しかしながら、中山間地域においては、厳寒期に収穫を迎える作型は秋冬期の不安定な気象条件や積雪等の影響が大きく、収量の確保が課題となっています。

そこで当センターでは中山間地域の現地水田ほ場において、積雪前に収穫可能な「年内どり作型」で省力安定生産技術を実証するため、現場と一体となって、かん水・排水対策、定植作業全自動化、省力施肥法等を組み合わせた「現場タイアップ研究」に取り組んでいます。

これまでの成果より、「年内どり作型」は盛夏期～秋期の気温の高い時期に栽培するため、排水対策に加え、活着から初期生育促進のためのかん水対策が必須でした。今回も現地ほ場では、畝間かん水、簡易スプリンクラーを組み合わせたことで、安定した活着と初期生育が確保でき、その有効性を再確認できました。また、生育期間中は雑草が繁茂しやすく、病害虫の発生が多いため、それらの見極めがポイントでした。今後これらの技術や情報を生産者へリアルタイムで提供することで、中山間地域での「年内どり作型」の省力安定生産を図っていきます。

一方で、重量野菜であるキャベツは収穫作業での労働負荷が課題となっており、生産規模の拡大を図るには収穫の機械化が必要です。今後当センターでは、機械収穫も含めたキャベツの機械化一貫体系の確立を目指し、引き続き現場と一体となった研究を進めていきます。



写真1 全自動乗用移植機の実証



写真2 簡易スプリンクラーの実証

問い合わせ先：栽培研究部水田園芸科（担当：齋藤晃大）

TEL：0853-22-6992

E\_mail:nougi@pref.shimane.lg.jp